

教育

◆多久市教育研究委嘱者発表会

多久市教育委員会から2年間を通し、研究委嘱を受けた、先生9人の発表会を2月8日市役所で行いました。この発表会では、研究成果を市内の教職員が共有し、指導方法の改善、授業の展開や評価を含めて、日々の教育活動で実践に生かし、子どもたちの「生きる力」を育むことがねらいです。

まず、研究経過中の6人が、テーマ設定の理由から期待できる成果までを発表。新年度からのさらなる研究につなげます。続いて研究成果発表では、田中佑香教諭(中央校)、居石伸弘教諭(東部校)、館林綾教諭(中央校)の3人が2年間のまとめを発表しました。

参加者からは、「義務教育学校という新しい学校の意義を感じた」などの感想が出されました。この研究が子どもたちの能力を高めたり、郷土に対する認識を深めたりすることに生かしていただきたいと願っています。

※この研究成果は『多久市教育研究集録(第25集)』にまとめ、多久市内各学校に配布しています。



発表会後の記念撮影

問い合わせ 学校教育課 学務指導係 ☎75-2227

今月の論語

逝く者は斯の如きか
昼夜をおかず

川の流れは、あのように昼夜ともなく流れてやまない。人の世もいつのまにか過ぎ去ってしまっている。

今月の帰宅放送は、東原岸倉中央校9年 江里口くるみさん(南多久町)です

教育長コラム

ちょっといい話



「お弁当」

「やっぱりMは来ない」標高のある地元の山への登山の朝。

度々、母親が家出する家庭で、その朝も母不在が想定され、弁当持参がネックだと考えていた私は「お弁当は忘れてきていいよ、先生がいっぱい持つてくる。早く寝て元気に来るのが大事」と学級全体に指導していた。

登山コースから外れるが家庭訪問。家人はいない、Mは2階にこもっている。「弁当が重い、手伝って」と叫ぶが出てこない。随分待った。

弁当があるなら行けるような単純な精神ではないのだ、弁当の必要な朝に帰宅しない母への憤りにもがいているのだと思うと、いじらしかった。

Mが登れなかったあの山の頂に、今年の冬も白い雪が乗って美しい。

教育長 田原 優子

市民文芸

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

- ◆隣家の群なす竹は雪背負い 深ぶかと地に頭たれたり 川浪 信子
- ◆いちにちが何事もなく暮れてゆく 天地を拝み眠りに就こう 浦野 嘉恵
- ◆立ち止まりほどけた靴紐結んだら 振り向かないで生きると誓う 野崎 隆幸
- ◆病む夫の好みし赤飯 おみやげに 歌会終えて急ぐ家路よ 梶原恵美子
- ◆「儂いとは」宴席の話題 賑わする 生命と別るる日近き同期 尾形 節子

俳句 《互選》

- ◆さらさらと雪降る夜のピアノ曲 おおやはな
- ◆挨拶の言葉を探す寒詣 中嶋 清子
- ◆人日や朱塗りの椀のくもり拭く 富樫 明美
- ◆庇よりどさりと落ちる雪の嵩 武富 律子
- ◆人の世の刻止まらず雪降り来 大石ひろ女

川柳 《多久市川柳会 互選》

- ◆考える余地を残そう叱る子に 田中 正春
- ◆考えなくなつて頭が邪魔になる 松下 修
- ◆修正液かくれた文字も見てみたい 大谷 和
- ◆大雪に手技料理が許される 高塚チカ子
- ◆持ち帰り出来ない島が狙われる 西山 残月